

Contents

■特集「景観」	2～5 P
■公共交通（デマンドタクシーの利用）	6 P
■議長・副議長・監査委員、緊急地震速報	7 P
■事業仕分け	8～9 P
■就業構造基本調査、標語募集、広告募集	10 P
■国民年金、野生鳥獣との共存	11 P
■ほつとにゆーす	12 P
■市展入賞作品、まちの外国人	13 P
■高齢者・介護・障害者に関する講座	14 P
■1000人献血、がん検診、いのちの電話	15 P
■お元気ですか(助産師外来)	16 P
■人権ってなあに	17 P
■サンパレス講座受講生募集	18 P
■パソコン講座、公民館事業、人権学習講座	19 P
■第32回長浜市芸術文化祭行事	20 P
■コンサート、講演会、ポルトガル語教室	21 P
■インフォメーション	22～23 P
■裏表紙 長浜城歴史博物館特別展 「歴史のなかの鉄炮伝来」	24 P

今月の表紙

8月19日(日)に早崎内湖ピオトープで開催された「早崎内湖 夏休み自然教室」。
子どもたちは、「暑い、暑い」と言いながらも、楽しそうに昆虫や魚を捕まえたり、水鳥やプランクトンを観察したりしていました。
早崎内湖ピオトープは、干拓地の一部に水を入れ、生き物などの調査をはじめてから約6年が経ち、今では自然教室ができるほど、たくさんの生き物が見られるようになってきました。

でも、もっと自然豊かでたくさんの生き物がいたかつての内湖のような環境や景色になるまでにはきっと長い年月が必要なのでしょう。
この子どもたちの子どもや孫が、ここに来てくるときには、今以上にたくさんの生き物を捕まえたり、観察したりできるようになっていればいいですね。

特集「景観」

長浜的景観考

「輝きと風格のある景観をめざして」

長浜の景観は、まちを愛する多くのみなさんの思いや、結いに見られる地域のつながりの中で守り、育てられてきており、今でも素晴らしい景観をたくさん見ることが出来ます。

しかし、時代が大きく変化する中、こうしたことだけでは対応できない事態も生じてきており、素晴らしい景観が保てなくなってきています。

そこで、市では、今後の景観づくりの方針や区域などを定める「景観計画」をつくる取り組みを始めました。

まちの顔づくり

■その取り組みと特徴



北国街道のまちなみ



街路樹のある幹線道路



国友町や下八木町での景観づくり



伝統を今に生かす

長浜らしい景観を考えていく前に、景観などに関し、今までどんな取り組みをしてきたのか、振り返ってみます。

昭和59年に策定された「博物館都市構想」に基づいて、現在のまちづくりの核をなす長浜城歴史博物館や国友鉄砲の里資料館などが整備されました。

また、旧市街地の大通寺表参道や黒壁スクエアなどのまちなみも整備され、今や長浜の顔とも呼ばれるものになっています。その後も曳山博物館や博物館通り、ゆう壺番街のまちなみ整備、旧長浜駅舎をモチーフとしたJR長浜駅の改築などにより、新たなまちの景観がつくられてきました。

一方、地域においても、近隣景観形成協定による景観に配慮したまちづくりや、田園や河川などの環境保全が進められてきました。

その他にも自治会や学校での花壇整備といった身近な景観づくりも続けられています。



長浜城歴史博物館

心を癒す自然のほほえみ

景観は、人の顔と同じように、見る位置や方向、距離などによって、いろいろな見え方がします。山や川、建物、人々の活動などの要素によってもいろいろな表情を見せてくれます。

長浜には先人がつくりあげた素晴らしい都市景観がたくさんありますが、昔から変わらないすばらしい自然景観もたくさん残っています。

たとえば、日本百名山のひとつ、伊吹山を背景にした風景や、夕日百選に選ばれた湖岸からの景色です。

また、姉川や草野川の水辺空間や、琵琶湖八景（深緑の竹生島）のひとつでもある竹生島の姿は、私たちに癒しを与えてくれます。

このように、長浜の景観には多くの人によってつくられ、守られてきた「都市景観」と、昔から多くの人の心を癒してきた「自然景観」があるのが大きな特徴です。

五感でとらえる景観

「景観」は、山や湖、まちなみなどの眺められる「対象」をあらわす「景」という文字と、それを眺める「主体」である私たちの感覚をあらわす「観」という文字が組み合わされた言葉です。

「景観」とは、目に見える建物や田園、人々の暮らしなどに加え、花の香りや小川のせせらぎ、雪の冷たさなど視覚以外で感じる様々な要素からなる空間を、私たちが目にし、感じることでとらえることができます。地域やまちの表情を意味しています。



郊外の田んぼから眺める山なみ



草野川の清流と桜並木



夕日に染まる琵琶湖と竹生島